

# 国語科学習指導案

日 時 平成20年 7月 4日(金) 2校時  
学 級 3年2組 男子19人, 女子15人 計34人  
授業者 及 川 智 子

## 1 単元名 豊かな言葉 俳句の可能性

## 2 単元について

### (1) 生徒観

生徒たちは1年次では詩を, 2年次では「短歌を味わう」で近代を代表する三人の歌人の短歌を学習した。郷土の歌人である石川啄木の短歌を学んだり, 短歌・俳句のコンクールに応募したり, 短歌や俳句に親しみを感じている生徒は少なくない。しかし, 興味関心はあっても, 表現のしかたに注意したり, 分析的に読んだりすることは十分できていない傾向がある。また, 生徒たちは, 多くの言葉を日常生活の中で使っているにもかかわらず, 言葉の一語一語がもつ重みや美しさなどを深く考えた経験はそう多くなく, また, 略語や短縮した言葉が流行語となり, 日常的に使われるため, 生徒たちの言語力も低下してきているように思われる。短歌・俳句などの選びぬかれた表現を学んでいくことにより, 自らの言語感覚を磨く姿勢が培われると思われる。また, そこに込められた作者の思いを感じたり, 情景を想像したりする楽しさを味わわせることで, 短歌や俳句に興味関心を持つ生徒がもっと増えるのではないかと考える。

### (2) 教材観

この題材において, 中心となる指導事項は, 学習指導要領の「読むこと」のウ「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」と, 「言語事項」の(1)ウ「抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め, 語感を磨き語彙を豊かにすること」である。

短歌・俳句は古くから受け継がれてきた日本独特の表現形態である。5音と7音の組み合わせによる音数律が, 長い年月を超えて日本人に親しまれ続けたこと, そして現代もなお, 私たちを惹きつける魅力にあふれていることからみても, 短歌や俳句は, 大切にすべき文化の一つと考えられる。また, 定められた音数・リズムの中で, その情景や心情にふさわしい言葉を精選し, 完成された俳句の秀作に触れることは, 語句の特徴に着目した表現活動につながり, 自らの言語感覚を磨く姿勢を培う上でも好材であると考えられる。

### (3) 指導観

指導に当たっては, 鑑賞を深める手だてとして, 五感を考えたり, 目的を持って読ませたりした上で, 作品どうしの組み合わせのおもしろさを考えて読む学習を中心に据えたい。伝統を踏まえながらも多様性を持った近・現代俳句に触れ, 選び抜かれた言葉からイメージを広げる楽しさや表現の深さを味わわせたい。また, 生徒の思考の流れに沿う展開で学習を進めることに配慮して指導に当たりたい。本単元は, 自主教材を中心に授業を展開した。俳句の特徴や約束事などをおさえた上で, たくさんの作品に直に触れさせて, 学習意欲の深まりを期待するためである。

### 3 自分の思いや考えをみつめさせ、自分を変えさせていく学び方の構想

#### (1) 「自分をみつめさせる」場のあり方

初めに自分が選んだテーマに沿って、俳句を選び、そして、その考えをさらに深め、広げるためにグループ学習をし、そこでの発表をもとにして、自分の選んだ作品を見直す機会を持つ。さらに、みんなで考えを交流する一斉学習という流れの学習活動を組み込んだ。グループ内の意見交流をする中で、他との「教え合い」や「学び合い」ができると考える。その活動を通して、自分の考えをみつめさせ、それを再構築し、まとめることができ、改めて自分の考えが修正、あるいは深化されていくと考えられる。

また、本時の学習課題である「作品のおもしろさをつかんで、テーマに沿ったミニ俳句集を作る」という作業は、解釈の仕方やものの感じ方によって、それぞれに違いや差が生じると思われる。故に、考えの交流が活発になり、自分の考えをみつめたり、再構築させたりしながら、自己を確立することにつながると考える。

#### (2) 「自分をみつめる」評価のあり方

単元の学習の中で、自己評価用紙による毎時間のふり返しを行う。単元の学習活動の内容を示し、この単元では何を学習するのかを生徒自身が把握した上で、自分の学習目標を立てさせる。毎時間、その目標に対してのふり返しを行う。そして、単元終了時には、「この学習を通して自分がわかったこと・できるようになったこと」「自分の考え方が変化したこと」「これからの学習でさらに高めたいこと」などの観点をもとに、自分を主語とした学習記録を記述させ、国語の力がどのように身についたのかを考えさせた学習のふり返しをさせたい。

### 4 単元の評価規準と指導の重点

国語への関心・意欲・態度	読むこと能力	言語についての知識・理解・技能
俳句独特の表現形式の特徴などから俳句に関心を持ち、さまざまな作品に触れようとしている。	<b>俳句の言葉や表現に注目しながら、句に詠み込まれた情景や心情を読み深め、あるテーマもとに作品を集めている。</b>	表現の意味を理解したり、好きな表現を取り上げたりすることを通して、作品の中で言葉の働きや意味を理解している。

### 5 指導計画 (3時間扱い)

第1次 俳句独特の表現を味わいながら、俳句の表現形式の特徴や表現技法などを理解することができる。(1時間)

第2次 音読で俳句のリズムを味わったり、「五感」で分類したりすることで、作品のおもしろさを感じることができる。(1時間)

第3次 作品のおもしろさをつかんで、テーマに沿ったミニ俳句集を作ることができる。

(本時 1 / 1時間)

## 6 本時について

### (1) 目標

俳句の言葉や表現に注目し、句に詠み込まれた情景や心情を読み深め、テーマに沿った作品を集めることができる。

### (2) 指導の構想

本時は、一つのテーマをもとに作品を集める学習活動が中心であり、俳句の言葉や表現に注目し、句に詠み込まれた情景や心情を読み深めることが目的である。

はじめに、事前に教科書の補助資料や資料集などの中から選んでいた作品を数十点ほど提示しておく。次にテーマを5～6つ示し、自分で興味のあるものを選ばせる。そのテーマに沿った作品を5つ選ぶのだが、条件として、「一見したところ、そのテーマとは無関係ではないかと思うような作品」を1つは選ばせ、句に詠み込まれた情景や心情をさらに深く読ませたい。グループ内の交流では、それを1つに絞るのではなく、選び方の工夫や、選んだ根拠などを交流させ、自分の選択の仕方や解釈の仕方などを見直させる活動を行い、自分の考えを再構築させる場とした。

そして、再度、自分のテーマで選んだ作品を見直し、最後にあとがきを添える。このあとがきは、選んだ根拠や読者（本時ではクラスメイトを対象とする）へのメッセージ程度の簡単なものとする。本時の学習活動の中で、様々な解釈、根拠が挙げられるだろうと思われるが、多様な表現の良さに気づかせながら、ものの見方や考え方を深めさせていけるよう、働きかけを行っていきたい。また、これらの学習活動を通して、目的を持って読む学習活動をさせながら、作品どうしの組み合わせのおもしろさを考えさせたい。

### (3) 具体の評価規準

観点	おおむね満足できると判断できる状況 (B)	十分満足できると判断されるキーワード (A)	努力を要する生徒への支援の手だての例	評価の方法
国語への関心・意欲・態度	俳句独自の表現の仕方と特徴を理解し、俳句を鑑賞しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートへの書きぶり</li> <li>・積極的な発言</li> <li>・俳句の特徴の理解の深さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句の基本事項の確認</li> <li>・具体的イメージの提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートへの記述状況</li> <li>・発言の記録</li> </ul>
読む能力	俳句の言葉や表現に注目しながら、句に詠み込まれた情景や心情を読み深め、テーマに沿った作品を選ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や説明の豊かさ</li> <li>・根拠の確かさ</li> <li>・自分なりの観点</li> <li>・書きぶりへの着目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の大意をつかませるための資料配布</li> <li>・情景についての具体的な例示</li> <li>・難解語句の解説</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートの記述内容</li> </ul>

(4) 展開

学習過程	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	留意点・備考
1 課題作り	1 いくつかの俳句を音読することにより、前時の学習を想起する。	1 数人に指名し、好きな俳句を音読させ、前時の学習を想起させる。	学習プリント
2 課題を設定する (6分)	2 学習課題を把握し、本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作品のおもしろさをつかんで、テーマに沿ったミニ俳句集を作ろう。</div>	2 いくつかのテーマを提示する。	板書
3 自分を見つめる	(学習の見通しを持つ) 俳句集のモデルを提示することにより、ミニ俳句集の作り方を確認する。	[ミニ俳句集作成の条件の提示] ○ 学習シートから5つ選ぶ。 ○ 一見テーマに属さないのでは、と思う俳句を1つ入れる。あとがきを添える。	学習シート 資料集 教科書
4 交流する	3 テーマを決め、俳句を選ぶことによって、俳句を読み味わう。	3 その他として提示したテーマ以外のものでよい。また、資料集などから新しく作品を見つけさせることも指導したい。	学習シート
5 考えを再構築する	4 グループで交流することによって、さまざまな俳句の読み方を検討する。	4 グループで1つのテーマに絞ることはせず、個々の選んだ観点などを中心に交流させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【話し合いの観点】 選んだ理由・選び方の工夫・ テーマに沿っているかの検討</div>	学習シート
6 課題を追究する (34分)	5 自分が選んだ俳句を見直すことで、俳句をさらに深めて読む。	5 最初に選んだテーマは変えないで、選んだ作品の見直しを行わせる。	学習シート
7 まとめ・ふりかえる (10分)	6 あとがきとして、自分が選んだ根拠や作品に対する思いなどを書くことで、改めて作品を読み味わう。	6 対象は、級友とし、選んだ根拠や選者として、読者へのメッセージのような形で書かせ、簡単な掲示物を作成させる。	自己評価用紙
	7 学習の手だてを想起することによって、深まりある読みについて考える。	7 深まりある読みをするための手だてを挙げ、考えさせる。	
	8 ふりかえり用紙に記入することにより、本時の学習をふりかえる。	8 自己評価用紙に記入させる。	